

# 平成29年度 第2回泉鳥取高等学校 学校協議会 議事録

日 時：平成29年11月10日（金） 15：00～ （学校内見学：14：30～）

場 所：本校会議室（A棟1階）

## 1、報告事項

(1) 本校の近況について（近西教頭）

- ① 郊外学習（1年：奈良市内散策 2年：神戸市内散策 3年：京都市内散策）があり、グループで活動することにより自主的に協力できる態度の習得を意識して実施した。
- ② 本校農園に朝日幼稚園の園児を招き、芋掘り体験（さつまいも）を行った。  
（当初は、芋掘り時に、本校生徒との交流も予定していたが、台風の影響により日程変更等が発生し生徒との交流はできなかった。【例年は実施している】）

(2) 本年度からの取り組みについて

- ① イングリッシュカフェの取り組みについて（担当：近西教頭）  
内容：生徒が気軽に英語を話せる環境を作り、保護者、通訳、ボランティアなど様々な大人と交流する
- ② 新たな地域交流：コットンプロジェクト（担当：橋本教頭）  
内容：阪南市の商工会議所主催の阪南コットンプロジェクトに本校が参加し、本校にて綿花を栽培、糸の生成、コットン用品の作成までを行うことにより、生徒に対して、ものづくりについての学びの場を整備するとともに地域交流を行う。  
現状：商工会議所から綿花の種をもらい、本校農園にて栽培中である。  
今年の文化祭では、毛糸等を使い、PTAを中心に織りの部分を行う予定している。今後の展望としては、綿花から糸をとり、「織り」まで行い、それをもとに地域交流を行う予定。
- ③ 基礎学力の向上に向けて（安田主席）  
目的：生徒の進路保障・自己実現のため。  
どのように取り組むか：  
職員研修を行い、生徒の基礎学力向上のための案を募った。その後、校内組織である【将来構想委員会】にて内容を検討し、実現可能な内容について順次実施していく予定である。  
現在の取り組み：  
（一部実施）居残り学習・不振者補習・少人数展開授業

(3) 教務部より（教務部長：松田教諭）

- ① 教科書選定について  
目的：本校の生徒に対して適切な授業を行うために、生徒に合った教科書を選定する。  
選定作業について：  
教科書の選択説明会（6/9）→教務部が資料を作成→各教科へ教科書選定依頼→各教科がシラバスを参考に、教科書を選定し、選定理由書を作成（6/30）→教務部が選定委員会への資料を作成し教科書の選定および教育庁への資料を作成→教育庁へ選定理由書等を提出（7/21）
- ③ 入試選抜について  
ボーダーゾーンについて：  
入学定員の110%を合格候補者とし、そのうちの成績上位90%が合格者、残りの20%はボーダーゾーンの合格候補者となる。残り10%の合格者を決定するために、20%の候補者の中学校からの調査書等から本校が求める生徒像であるかを判断し、本校が求める生徒像に極めて合致した候補者を合格とする。その後、成績順で合格とする。  
※アドミッションポリシーは、【本校で求める生徒像】を判断するために使用される。  
入学後、本校で努力し成長できる生徒に求める資質を設定し、ボーダーゾーンの受験者で、そ

れを強く持ち合わせていると判断した生徒に対し合格を出している。

④ 入試の成績について：

学力検査（450点）：調査書（450点）を4：6の割合で重さを持たせ判断している。

※入試問題の選択については、国語 B 問題、数学 A 問題、英語 A 問題

(4) 進路について（進路部長：鮎川教諭）別紙資料あり

① 進路状況について：

- ・昨年度の進路状況について、進学：就職＝1：1の割合である。また、進路未決定者については卒業生の10%程度となっている。
- ・今年の3年生については、進学者は例年通り、就職者は合格者の割合は変わらないが、就職試験を受けた生徒が例年より少ないので未決定者が増える可能性がある。

② キャリヤ教育について：

1・2年生間からインターンシップへの参加を促しており、1学期には各学年30名程度が参加した。また2学期には、1年生は10名程度、2年生は20名程度参加する予定。

③ 資格について：

文書デザイン検定3級は、情報の授業内で受験できる。

英検は、校内受験できるようにしており、生徒へも積極的に受験するよう案内している。

## 2、協議事項 中学生が入学したいと思えるような高校にするには <委員からの提言等>

### <教育界の動向など>

- ・保護者が高校に求める大きな要素として「学力向上」がある。
- ・高校の役割は地域により、求められるものが異なるが、泉鳥取高校に求められるのは、「安心・安全に学ぶことができる」ことだと考えられる。

### <協議>

#### ○基礎学力向上について（泉鳥取の新しい取り組みで紹介された資料を中心的に議論）

- ・基礎学力を向上するには、『制度的・物理的なもの』『指導の質』『生徒の非認知学力（見えない学力）』に分けて考えることができ、さらに、教員集団で行うものと教員個人で行うものがある。それを前提に、より良い学力向上のプランを考えてはどうか。
- ・学力向上において、まず『正しく生徒を知る』ことが大切。アクションリサーチを正しく行い、生徒の行動・内面を把握した上で、グッドプラクティスを真似するのではなく、生徒の現状から指導を考える。
- ・トップダウンよりも、普段の授業や生徒の様子から指導について考えるボトムアップ的な方法の方が良いのではないか。

#### <基礎学力向上プランについての具体案>

##### 『見えない学力の育成』

1週間の振り替えりをし、生徒自ら学んだことを振り返る機会を持つ。

##### 『面談習慣』

長期休暇前に授業は短縮授業の週間を作り、全校生徒対象に面談の機会を持つ。

##### 『少人数展開』

少人数展開は習熟度別にクラス編成をすべき。（本校は実施済）

##### 『朝学習』

定期考査に組み込むなど、生徒が朝学習に向かう目的を作る。

##### 『地域交流』

探求学習として活用する。

##### 『ユニバーサルデザイン』

授業形態を統一化する（プリントの様式をそろえる）などの配慮を行う。

クラス内での掲示物の位置を統一する。（締め切り物は黒板の右側など）

### <まとめ>

中学生が入学したいと思えるような高校にするために、生徒の進路保障をより充実させる。そのためには、泉鳥取高校の取り組みや学校行事、部活動から『見えない学力』を育成し、『見える学力』へつなげることにより、基礎学力を向上させることが必要ではないか。